

日本労働年鑑 第56集 1986年版
The Labour Year Book of Japan 1986

第二部 労働運動

XI 労働組合と平和・社会運動

4 反戦・反軍・反基地闘争

七・二九中央集会と一一・一一行動

八四年七月二九日、政党法制定に反対する中央連絡会、核巡航ミサイル・トマホークくるな！ 国民運動連絡センター、医療団体連絡会議、中央実行委の四団体は、「新たな治安維持法・政党法を許すな、核巡航ミサイル・トマホークくるな、健保改悪反対中央集会」を、東京・代々木公園で開催し、一万人が参加した。集会は、全国革新懇の亀田代表世話人のあいさつのち、宮本共産党議長、山口勇子原水協代表理事、引間統一労組懇代表委員などが各界を代表して決意表明に立った。最後に、(1)政党法制定に反対する決議、(2)核巡航ミサイル・トマホークの配備・寄港に反対する決議、(3)健保改悪に反対する決議、(4)中曽根内閣にたいする要求決議を採択し、四コースに分かれてデモ行進に移った。

一一月一日には、トマホークくるな！ 国民運動連絡センターと同地方連絡センターが、日米合同演習がかつてない規模で展開されているなか、全国で「核トマホークくるな！ 核戦争阻止全国いっせい行動」をおこなった。東京では「横田基地 // 人間の鎖 // 行動」に六〇〇〇人が参加、京都・大久保基地二〇〇〇人など米軍基地や自衛隊基地で抗議行動が展開された。

八・一五の運動

八四年八月一五日、東京・千鳥ヶ淵の戦没者墓苑において、総評・社会党・中立労連・新産別・護憲連合の共催で第四回目の「戦争犠牲者追悼・反戦平和への誓いを固める八・一五式典」が開催され、約三〇〇人が出席した。

また前日の八月一四日には、新日本宗教青年会連盟主催の第一九回目の「戦没者合同追悼・平和祈願式典」が、同所で約八〇〇〇人が出席して開かれた。

一〇・二一国際反戦デー

一九回目を迎える八四年一〇・二一国際反戦デーを控えて、中央実行委員会は八月三十一日、反安保全国実行委員会にたいし、中央集会の共催を申し入れたが、全国実行委は事実上これを拒否した。この結果、東京では四年つづきで社・共両党系に分かれての二つの中央集会が開かれることになった。

総評・社会党・護憲連合・原水禁国民会議、反安保全国実行委・同神奈川県実行委等の共催の「反戦・反核・平和横須賀大集会」は、横須賀市の臨海公園で約二万人が参加して開かれた。集会は「横須賀アピール」を採択した後、市内を横須賀中央駅までのデモ行進に移った。八四年の集会名からは「国際反戦デー」の表現がなくなった。また、「反米的色彩が強すぎる」などの理由で八三年

以来、参加を取り止めていた中立労連と新産別が、三年ぶりに協賛団体に名をつらねた。このほか、北海道釧路市で開催された「日米合同演習反対全国集会」には一万一〇〇〇人が参加している。

他方、中央実行委員会・同東京実行委員会は、東京・明治公園において「安保条約廃棄、核兵器全面禁止、政党法・スパイ防止法許すな、核トマホークくるな、国民生活防衛、中曽根内閣糾弾全国統一行動中央集会」を、三万人の参加で開催した。地方では大阪で三万五〇〇〇人、横須賀一万五〇〇〇人などであった。

警察調べによると、この日四七都道府県、五〇〇会場、二二万六〇〇〇人が参加して、集会・デモがおこなわれた。このうち、社・共両党系の統一集会が実現したのは、都道府県レベルで前年より七県少ない一五県、全体では二七道府県の一二三会場、五万九〇〇〇人であった。

カールビンソン寄港反対闘争

米最新鋭原子力空母カールビンソン号は、一二月一〇日横須賀に入港した。これに先立つ一月三〇日、護憲・反安保神奈川県実行委員会は、横須賀市臨海公園において一四〇〇人が参加して「カールビンソン横須賀寄港阻止神奈川県民集会」を開いた。

入港前日の九日には、横須賀市臨海公園において、社会党、総評、護憲連合、原水禁などが主催して寄港反対東日本集会が開催され、一万八〇〇〇人が参加した。また、入港時間の午前八時から、二〇〇人が一〇隻の船に分乗して海上デモもおこなわれた。

夕刻からは同じ場所で、中央実行委、安保廃棄神奈川県実行委、原水協などの主催で、「カールビンソンくるな！ 核兵器全面禁止、安保条約廃棄、中曽根内閣打倒横須賀緊急抗議集会」が開かれ、約五〇〇〇人が参加した。

またこの日、長崎県佐世保においても長崎県労評、社会党で構成している反核・反基地・核艦艇寄港阻止長崎県共闘会議が主催する集会が開かれ四五〇〇人が参加した。

東京大空襲四〇周年をめぐって

東京大空襲から四〇年目を迎える八五年三月九日を前後して、被災地を中心にさまざまな催しがとりくまれた。

児童文学者の高田敏子、歴史学者の家永三郎、漫画家のちばてつやの各氏らがよびかけ人になって結成された「再び許すな東京大空襲！ 下町反戦平和の集い」実行委員会は、三月一日から一〇日まで「下町一〇〇〇キロ、一万人平和リレー行進」をおこなった。また、八日には荒川区民会館で「平和折りづるコンサート」を開催、「核による新たな東京大空襲を防ぐため、東京に平和の輪を広げよう」とのアピールを発表した。

一方、「東京大空襲四〇周年記念行事実行委員会」(代表、早乙女勝元氏ら)は、九日都内四会場場で「二度と戦争を許さぬ都民のつどい」を開いた。主会場の千代田区明治大学一―号館では約二〇〇〇人が参加。体験談、映画や反戦講談、落語などが催された。このほか、江東公会堂、杉並公会堂、池坊会館でも、市民コーラスや体験談、写真展などがおこなわれた。

六・一六と六・二三の反安保集会

八五年六月一六日、日本はこれでいいのか市民連合など市民・労働団体で構成する日韓条約二〇年を問う全国実行委員会が「日米安保はいらない！ アジア太平洋民衆とともに！ 全国行動」を

おこなった。東京では明治公園に三〇〇〇人が参加した。

現行安保条約発効二五周年にあたる六月二三日を前後して、滋賀・宮城(二一日)、福島(二二日)、新潟・熊本(二四日)の六県で社・共両党系の統一集會がおこなわれた。安保破棄実行委は、二三日愛知・春日井で「小牧基地大行動」(六五〇〇人)、横須賀で「神奈川県集會」(二〇〇〇人)、京都(一八〇〇人)などの集會・デモを全国でくり広げた。

その他の反戦・反軍・反基地闘争

以上にあげた以外の主な反軍・反基地闘争には次のようなものがあった。

(1)千葉県下総基地の米軍使用に反対する闘争(八四年八月一二日「下総基地の米軍使用に反対する鎌ヶ谷市民集會」・鎌ヶ谷市一二〇〇人、八五年六月二日「ジェット機はいや！住民集會」・沼南町五〇〇〇人)、(2)岩手県と宮城県における日米共同実動演習に反対する闘争(八四年九月九日「日米共同実動演習反対・核戦争阻止・安保廃棄集會」平和委など仙台と盛岡であわせて四六〇〇人、九月一七日「日米共同演習反対・トマホーク配備反対宮城県集會」宮城県労評・社会党主催・仙台三〇〇〇人、九月一八日「同上岩手県集會」、九月二九日「日米共同演習。トマホーク持ち込み反対宮城県連絡会主催集會」・仙台八〇〇人)、(3)一〇月二八日、安保破棄北海道実行委など主催で「日米合同実動演習に反対する集會」・別海町一〇〇〇人、(4)一〇月二八日「自衛隊第三四回観閲式反対埼玉県民集會」・埼玉県評・社・共など主催・朝霞駅前二一〇〇人、(5)一一月二日、横浜港湾労組協と安保破棄統一促進協などが自衛隊観艦式反対の海上デモ、一〇〇人六隻、一一月四日、護憲反安保神奈川県実行委員会と観艦式反対相模湾沿岸連絡会議が観艦式反対集會、藤沢市太陽の広場三〇〇〇人、(6)八五年一月二七日「北海道を核戦場にするな、日米合同指揮所演習「ヤマサクラVII」に反対する全道集會」安保破棄北海道実行委など・千歳市三五〇人、二月一七日「北海道核戦場化阻止・日米合同演習反対・多田弾薬庫拡張反対上富良野全道集會」一一〇〇人、(7)三月四日から一〇日まで、安保廃棄・くらしと民主主義を守る沖縄県統一行動連絡会議(統一連)など四団体による、米韓合同演習「チームスピリット'85」への抗議・監視・調査行動、(8)三月一三日「相模総合補給廠兵器搬入反対・春闘勝利総決起集會」反戦平和県北共闘・相模原地区労・社会党など一〇〇〇人、(9)四月二日「F16三沢配備反対・核燃料ミサイル基地建設反対上十三地方集會」社会党・県労会議・上十三地区労など・三沢市中央公園五〇〇人、五月二六日「核戦争阻止・核兵器全面禁止・日米安保廃棄・F16核攻撃機配備反対・三沢基地撤去大集會」平和委など中央四団体と東北六県のトマホークくるな連絡センターなど主催一万人、(10)六月六日「核巡航ミサイル・トマホーク積載可能艦入港抗議集會」護憲反安保神奈川県実行委・横須賀臨海公園五〇〇人。

日本労働年鑑 第56集 1986年版

発行 1985年12月5日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

2001年8月15日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1986年版(第56集)【目次】 次のページ → ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
